



医療法人 康仁会

西の京病院

vol.56

メディカル

最前線

脊椎センター

腰椎変性すべり症

脊椎外科専門医の高度な技術に基づく
傷口・負担の少ない手術で早期の社会復帰を

立ったり歩いたりしている時に足の痛みやしびれが生じる。
が、少ししゃがんで休むと症状が楽になりまた歩ける（間歇性
跛行）といった腰部脊柱管狭窄症と似た症状の**腰椎変性す
べり症**がある。この病気の治療について西の京病院脊椎セン
ター長の向井克容先生に話を伺った。



最前線医療を行う

先生の健康法

若い頃の体型に戻すべく、負
荷のあるウォーキングに加え、
食事量のコントロールと筋トレ
で減量(10kg)しました！

整形外科部長・脊椎センター長
向井 克容 医師
MUKAI YOSHIHIRO

足腰の症状でお悩みの方
あきらめないで！

腰部脊柱管狭窄症の病態は非常に多様で、
手術治療方法も多種多様。医学的所見と
画像などから総合的に判断し、個々の病
態にベストな治療法を選び、専門性の高い
チーム医療を行います。



先生の健康法

雨の日以外は自転車通
勤するようにしています。

脊椎センター副センター長
吉田 真 医師 〈上右〉
YOSHIDA MAKOTO

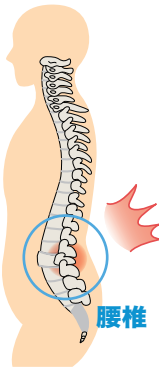
整形外科医長

藤井 渉 医師 〈上左〉
FUJII WATARU

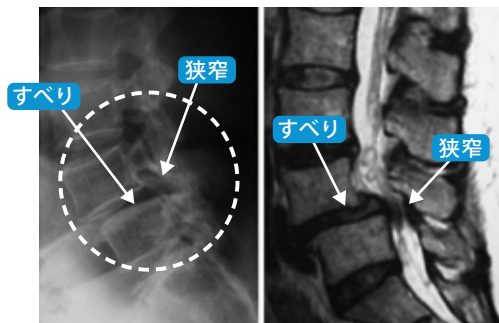
先生の健康法

自転車通勤と腕立伏せ
などの筋トレを少々。

腰椎変性すべり症とは？
腰椎変性すべり症は、加齢に伴
う変化により椎間板が張り出したり、
骨のズレが生じたり、骨や靱帯が分
厚くなったりすることで、神経の通
り道である脊柱管がふさがり神経が
圧迫されて、腰や臀部から足にかけ
ての痛みやしびれなどを起こす病気。
50〜70代に多く、特に4番目〜5番
目がずれやすいとのこと。
初期症状は、前記した**間歇性跛
行**で、休み休みでないと歩けなく
なる。進行する
と、両足麻痺や
肛門のしびれが
起き、さらに進
むと排尿・排便
障害も出てくる。



腰椎変性すべり症



X線

MRI

X線やMRI検査
まずは痛みがどこから来ているか、
坐骨神経痛の出現や下肢の感覚等、
神経学的に診断。さらに動態撮影を
含むX線撮影やMRIで検査し、診
断を確定する。

豊富な
経験による
正確な診断

腰椎椎体間固定〈術後〉



傷口はできる限り小さく
局部麻酔・保険適応

※術前に3次元画像で
シミュレーションを行い、詳細に術前計画を立てる
※人工骨を足すが、削った骨も再利用しチタン製の
ボルトで固定、骨の再生を促す

治療

◆保存療法

●初期…消炎鎮痛薬や神経ブロック療法
などで痛みをコントロールしながら経
過観察
●骨の変形が軽度の場合…内視鏡で脊柱管
の除圧。固定術併用の場合もあり

◆手術（展開の少ない低侵襲固定術）

●腰椎の不安定性がない場合…骨を削っ
て神経の通り道を広げる
●腰椎の不安定性が強い場合…椎体間固
定術（PLIF、TLIF）で背骨を支
える

①固定にはスクリュー（ネジ）を使うが、
傷口はできるだけ小さい低侵襲な方法で
スクリュー刺入を行い、1椎間の固定な
ら**4cm程度の傷**で手術可能。**術翌日に離
床**。2〜3週間リハビリ入院し、退院後
は1か月・3か月・半年・1年後と外来
通院で経過観察。

②筋肉の展開をせずに、皮膚の上からスク
リュー刺入の場合（経皮的椎弓根スク
リュー）も。
皮膚から突き出したガイドを利用しスク
リュー間を連結。筋肉を骨からはがさな
いので筋肉のダメージが少ない。